

新宮山彦ぐるーぷ第2110回

行仙宿の巡回整備と迎春準備

◇実施日…2020年12月20日(日) 晴

◇参加者

沖崎吉信、濱野兼吉、生熊敏男・千万子、橋本梓、児嶋道夫、
大江加代子、畑林清子、山川治雄、岩本信行、中前偉、村吉
光夫、志岐敬、梶野照雄
三井幹雄、野崎肇、アラン・モス(前泊)
関本俊雄(京都市・日本山岳会)

18名

朝8時30分、下北山村役場駐車場に全員が揃う。日曜日だが職員採用試験の面接日のために朝から人が多い。

積雪の状態によっては冬タイヤの車に分乗して登山口に向かうことも考えていたが、国道に雪はなさそうなので全車で登山口に向かった。R425に概ね雪は残っていなかったが、日陰になった橋には少し積雪が残っていた。距離が短いのでノーマルタイヤでも通過でき、無事に登山口に到着。モノレールに荷物を満載して登りだす。

登山口水場のしめ縄を交換して川島前代表急逝現場で慰霊、中前導師で全員線香を供え、15日に逝去された山上副代表の霊も弔った。

モノレール終点から各自荷物を分担して行仙宿へ向かう。補給路

は3〜5cmの積雪がある。日の当たる部分は溶けているが、日陰にはしっかり残っていた。



満載の荷物で



登山口水場のしめ縄交換



川島前代表の慰霊



積雪の行仙宿



床掃除は終わっていた



玄関横の雨水槽

行仙宿に到着、前泊していた三井さん等3人の出迎えを受ける。

朝からストーブに火が入られているので、小屋内は暖かい。玄関横の温度計はマイナス2℃を指していた。床に敷かれていたマットが片づけられていて、三井さんが「床は拭き掃除しました」と言われた。



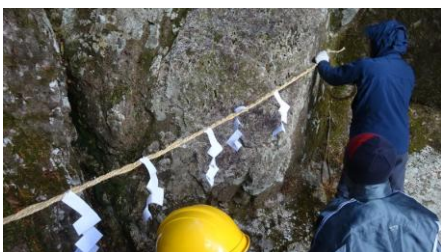
ハンマードリルを使う

水場は流れ無し

底浚え

玄関横の雨水槽には厚さ10cm位の氷が張っていた。ツルハシで叩いてもビクともしないので、ハンマードリルで穴をあけて表面の氷を除去した。外周にも厚い氷が付いているが、ドリルでは槽に穴を空けてしまいそうなので手で割ることにした。

濱野、梶野、志岐、岩本の4名で水場に降りる。水はまったく流れておらず、溜まった落葉が腐って異臭が漂っていた。レーキやジョレンで落ち葉を取り除き、溜っていた水も掻き出して水溜を空にした。しめ縄を交換して小屋に戻る。水場の下方に水の流れが見えているので、水流が無くなったのではなく、水溜に流れ込む水が無いくということになる。



しめ縄交換

雨水槽を伏せる

トイレ横の雨水槽

小屋に戻ると雨水槽の氷割がまだ続いていた。横の氷は無くなってしたが、底に10cm厚の氷が残っている。雨水槽の外側から結氷が始まって中心部に氷が残っていたようだ。

雨水槽を4人がかりで動かし、逆向きに伏せて底を慎重に叩いて氷を落とす。落ちた氷の欠片はすぐに凍り付いてしまうので、スコップで取り除いた。トイレ横の雨水槽も、ほぼ同じ手順で空にし、伏せて動かないように固定した。

小屋に入って昼食、マットも元に戻されて掃除は終わっていた。12時過ぎに京都の関本さんが到着される。食後にコジマカフェも開店、関本さん差し入れのお菓子などでくつろいだ。外は寒いので小屋内で全員の写真を撮る。

山川さんと二人で小屋南の斜木を切りに行った。何とか切断できたが、ワイヤーで引っ張ってもビクともしない。楔を打ち込み横方向へ引っ張ると、根からは外れたが上部枝の引っ掛かりはそのまま

で真つすぐ立った状態になった。このままでも危険はないので倒すのは次回に持ち越しとした。



ドア上にしめ飾り

本日の参加者

斜木を切除

お堂で勤行後、下山する。沖崎さんは関本さんを川島橋へ案内して行かれた。

登山口に全員が揃い、沖崎さんから今年一年のお礼や来年に向けてのお願い等の挨拶があり、令和2最後の行事を終えた。

(記：梶野、写真：梶野、志岐、中前)

行動タイム

08：30 役場駐車→09：10 登山口 09：17→10：15 行仙宿→10：46 水場→11：18 行仙宿 13：45→14：25 登山口